

名 称 変 更 の 概 要

事 項	記 入 欄
計 画 の 区 分	学部・学科の名称変更
フ リ ガ ナ 設 置 者	カッコウホウジン カカクエン 学校法人 加計学園
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称	クラシキゲイジユツカガクタイガク 倉敷芸術科学大学 (Kurashiki University of Science and the Arts)
名 称 変 更 の 内 容	(現在の名称) (変更後の名称) 生命科学部 → 生命科学部 英訳名 (Faculty of Life Science) 英訳名 (Faculty of Life Science) <u>生命科学科</u> → <u>環境生命科学科</u> 英訳名 (Department of Life Science) 英訳名 (Department of Environmental Life Science)
名 称 変 更 の 時 期	令和 7 年 4 月 1 日
新名称の対象年次	第1年次
名 称 変 更 の 理 由	本学科は、平成16年度の改組において、新設の生命科学部のもとに機能物質化学科から生命科学科へと名称変更して配置された。生命科学科は、これまでに生態環境学とバイオエンジニアリングの2つの分野を教育の柱とし、前者では、自然環境や生物多様性に関する理解を深め、最近の環境問題の解決に資する人材の育成を、後者では微生物学、天然物・食品化学などの分野の教育研究を通じて産業への発展が可能な技術を身につけた人材の育成を目指してきた。 近年の科学技術の目覚ましい発展が人類に豊かな生活をもたらした一方、これまでの大量生産、大量消費の技術革新には種々の負の側面があり、地球規模においては地球温暖化や海洋汚染など人類の存続に関わる重大な問題を引き起こしている。地域レベルにおいても生物種の減少、廃棄物汚染、水質汚濁、耕作地放棄など、その地域特性に応じたさまざまな問題が起こっている。このような社会においては、持続可能性（サステナビリティ）の観点から自然界や人間社会の事象を正しく理解し、未来に向けて的確に意思決定できる人材の輩出が求められていることから、本学科では、野外での課題解決型学習（PBL：Project based learning）を主要な教育手法とし、「生態系（エコシステム）の持続可能性」の探究をより重視する方向へとシフトしている。なお、本学では令和6年度からは全学カリキュラムを全学共通のBasic Programと学科独自のAdvanced Programで構成する「アート&サイエンス教育（A&S教育）」に転換する教育改革を行い、本学科がA&S科学分野の教育やフィールドワークやPBLを通じて、全学生に科学的な考え方を提供する役割も果たしている。 このような人材養成および教育研究上の目的と学科の教育内容とを整合させ、環境問題への対応と社会的要請に応えるため、「環境生命科学科」へ名称を変更する。この学科名称は我々の教育方針や人材養成の目標を反映するとともに、学科の教育内容や特性をより正確に表現しており、生命科学科の歴史と伝統を尊重しつつ、社会が直面する環境課題に対処するための取り組みを強調し、学科が目指す新たな方向性を示している。 なお、今回の名称変更は全学の中期計画における組織見直しに伴うものであるため、名称変更後の学科名称については令和7年度入学生からを対象とする。
在 校 生 へ の 対 応	変更後の学科名称の適用は令和7年度入学生からとし、在籍者については従前の学科名称を適用する。 学科名称変更については、大学ウェブサイト等を活用して周知する予定である。